令和2年度

学校評価総括評価表

令和3年3月
徳島県立那賀高等学校

令和2年度　学校評価総括評価表　［徳島県立那賀高等学校］

重点課題	重点目標	担当	評価指標と活動計画		評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	
1　生徒を伸ばす学習指導	①　分かる授業と基礎基本を定着させる指導と支援	教務課	①-1　全ての教職員が，それぞれ教科の研究授業に年間2回以上参加する。また様々な研修に積極的に参加する。	①-1　初任者研修，授業力向上研修，中高ティームティーチング公開授業等に参加し，授業力向上に関する研修を行う。	①-1　相互授業参観月間を実施した。授業が充実しているとのアンケート結果は生徒・保護者では前年とほぼ同じであるが，教員では前年より15%増加した。	①-1　年間2回（6月，10月）授業相互参観月間を実施した。またフレッシュ研修，ミドルリーダー研修，中高ティーム・ティーチング公開授業を実施した。	（評価） B	（評価） B		①-1　電子黒板が導入され，ICTの活用をより充実させる。グループ学習や習熟度別，個別指導など場面場面に応じて展開する。
		進路指導課	①-2　校内実力テストや模擬試験の結果データを各学年団や教科の先生と毎回共有し，学習内容が適正かどうか検討する。	①-2　生徒の実態を的確に把握するため，継続的な成績推移の分析を充実させるとともに，情報を共有する研修会を１回以上開催する。	①-2　コロナ禍の影響で，研修会を開催することはできなかったが，校外模試等のデータを学年や教科担任間で回覧し，情報共有を図ることができた。学年の実態に応じて，模試等を研究し実態に応じた試験を実施することができた。	①-2　コロナの影響で就職試験日程が変更になり，現在開催できていない。2月にできないか検討中。	（評価） B	（所見） 今年度は，コロナ禍の影響で4月・5月と生徒が臨時休業になったが，課題等の郵送や電話連絡等を行うことにより，生徒の学力保障に向けて全教職員が一丸となって取り組んだ。 学校再開後は，行事の精選や，夏季休業の短縮など工夫しながら「生徒を伸ばす学習指導」という重点課題に向けて，本校の特色である普通科と専門学科である森林クリエイト科が併設しているという特長を生かした教育活動を通年にわたり実施することができた。 習熟度学習については普通科・森林クリエイト科ともにコース制の利点を生かしながら一部の教科で実施し，大きな効果を上げている。 また，毎週の週末課題や個別指導など，教職員が連携し，一人一人の生徒に対して，丁寧で，きめ細かい指導を継続しており，生徒の学習意欲の向上や学習習慣をつける工夫を行った。 国際交流は，コロナ禍の影響で多くの行事が実施できなかった。豪州のセントメアリーズ校との交流では，今年度は訪問する予定であったが，実施を見送らざるを得なかった。。また，ドイツニーダーザクセン州のカヌー団との交流や東京2020オリンピックに係るドイツカヌーチームとの交流も中止となった。		①-2　次年度も情報共有を継続していきたい。第1回大学入学共通テストが実施されたことを踏まえての研修会を開催できるよう努める。
	②　学習意欲を向上させ，学習習慣をつける指導	進路指導課 教務課	②-1　毎学期ごとに進路・学習関係の個人面談を実施する。	②-1　毎学期初めを担任（副担任）による個人面談週間とし，適宜，適切に実施する。進路指導・生徒指導等の助言対応，生徒理解を深めるため個々に応じた計画とする。	②-1　年間指導計画だけにとらわれることなく，適切に，かつ迅速に実施している。全職員が面談等を通じて生徒の理解と個性の伸長に努めている。	②-1　臨時休校中は担任（副担任）による電話連絡によって共通理解に努めた。学校再開後，6月，9月は個人面談週間を設定し，全学年で実施した。また9月以降は就職・進学対策として面談・面接指導に対しては，「チーム那賀高」として取り組んだ。	（評価） A			②-1　生徒一人一人の理解を深めるため，定期の面談期間の確保し，また柔軟に対応できる「チーム那賀高」の体制を今後とも維持していく。
			②-2　1週間ごとに週末課題を課し，家庭での学習習慣をつけさせる（家庭学習時間1時間以上の割合が40%以上）。また，補習についても確実に出席させる（補習参加率80%以上）。	②-2　各教科で週末課題を計画的に作成する。また，実態に応じた補習授業を計画し，積極的に実践する。	②-2　週末課題は，2学期末までに20回実施した。定期考査期間等を除くと毎週実施することができた。家庭学習時間については68%が1時間以上の家庭学習時間を確保している。補習についてはバスのダイヤ変更もあり70%を下回る。	②-2　教科担当がチェックした。場合によっては再提出や小テストも実施し，個人の頑張りとして評価している。各HRおよび集会等で家庭学習の重要性を説いた。	（評価） B			②-2　各教科内において自作のプリントなどが用意されており，多様な生徒に対応するためこれからも継続していく。早朝補習については生徒が参加しやすいような形態を検討する。
	③　効果的な習熟度別授業展開と個別指導の充実	教務課 進路指導課	③-1　国語・数学・英語において，習熟度別授業を設定し，授業の実施内容や定期考査等による評価を，習熟度別クラスごとに適切に行う。	③-1　十分なガイダンスを行った後に習熟度別クラスを編成し，少人数による指導を徹底する。また補習においては学科の枠を越えた横断的な授業展開を行う。また，授業の指導法と評価の在り方について全教職員が研修し，実践する。	③-1　森林クリエイト科においては，実情に即して1年次より習熟度別による授業展開とした。普通科においては2年次から応用コースは文理別となり，実質的に習熟度別での展開ができた。また本年度2学期に導入された電子黒板を用いた授業も効果的であった。	③-1　授業を通じて，また十分なガイダンスを行った後に習熟度別クラスを編成し，少人数による指導を行った。また補習においては，学科にとらわらず，講義，演習，個別指導等進路希望に応じた指導が行えた。また，評価においては年間指導計画作成に当たり教科内で共通理解を図った。	（評価） B			③-1　授業力の向上が最大の目標であり，今年度導入された電子黒板をすべての教科の授業で十分に活用する。
		進路指導課	③-2　実態に応じた補習，個別指導を実践し，学校評価アンケートの「那賀高校は一人ひとりの希望・能力・適性に応じた，進路指導をしている。」の項目で，「当てはまる」という生徒の割合を80%以上にする。	③-2　学年初めに各学年の進路希望の状況と成績等の現況について分析し，実態に応じた補習計画等の年間計画を立てる。年間5回の進路希望調査を行い，個別指導計画の見直しを行う。	③-2　アンケート結果では，83.4%の生徒が「当てはまる」と回答しており，目標を達成できた。ただし前年からは1.5%減少している。	③-2　補習に関しては，早朝補習・資格取得対策補習・長期休業中補習・共通テスト対策補習等を計画し実施できた。進路希望調査においては，計画通り実施できた。	（評価） B			③-2　次年度も生徒の進路希望に応じて適宜，補習を計画し実施したい。早朝補習に関しては，バスのダイヤが変更されたため，実施方法を検討したい。
	④　国際交流活動を通しての異文化への興味・関心の向上と異文化理解	英語科 国際交流委員会	④　オーストラリアのセントメアリーズ校との交流やドイツニーダーザクセン州の生徒との交流を通して，「国際交流活動は異文化への興味・関心の向上と異文化理解に役立っている」と答えた生徒を70%以上にする。	④-1　隔年でのオーストラリア・セントメアリーズ校との相互交流を継続する。本年度はセントメアリーズ校を訪問する予定であったが，世界情勢を考え，中止する。代わりに電子メール等のICTを活用しての交流を行う。 ④-2　ドイツニーダーザクセン州の生徒との交流についても継続して行う。滞在中のプログラムを関係者で協議し，より内容のあるものとする。	④　交流は実現しなかったが，アンケート結果で，84.9%の生徒が肯定的な意見であった。	④-1　オーストラリアへの訪問がなくなり，ICTを活用しての交流を計画したが，姉妹校との都合が合わず実現に至らなかった。 ④-2　ドイツニーダーザクセン州の生徒との交流はコロナの影響で実施できなかった。	（評価） B			④　セントメアリーズ校との交流は，貴重な体験なので，来年度はICTを用いての生徒間交流を実現させたい。世界情勢を見ながら，7来年度は訪問する予定なので，参加希望生徒の語学力，コミュニケーション力を向上させる。
	⑤　普通科及び森林クリエイト科の特長を生かした教育活動の充実	教務課	⑤-1　（普通科） 「普通科におけるコース選択制は，生徒のニーズにあっている」と答えた生徒の割合を82%以上にする。	⑤-1 2年次からコース選択制の授業展開とし，コース選択におけるミスマッチがないよう，各コースの特長を生かしつつ，一人一人の進路希望に応じた指導を行う。	⑤-1　（普通科） アンケート結果では生徒の84.8%，保護者の92.0%が肯定しており評価指標は達成しているが，保護者の評価は若干ダウンである。教員の評価は前年より良くなった。（86.4→91.3）	⑤-1　コース選択制について各コースの特長を学年団，各HR，各教科ごとに行った後，保護者を交えた面談を行いコースの決定を行った。	（評価） B			⑤-1　各コースの特長を十分に理解させたうえで，生徒・保護者の要望も踏まえておくことが大切である。ただし，希望通りにならないこともあるので，日々の授業の大切さを理解させる。

令和2年度　学校評価総括評価表　［徳島県立那賀高等学校］

重点課題	重点目標	担当	評価指標と活動計画		評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	
		森林クリエイト科	⑤-2 （森林クリエイト科）持続可能な循環型社会の形成に向けた，人と森林の新たな関わり方を創造し，地方創生を担う「人財」を育成する。 (ｱ) 地域資源の活用 → 地域機関との連携学習を5回以上実施する。 (ｲ) 最新技術の習得 → 高性能大型林業機械，ドローン等の講習会を3回以上実施する。 (ｳ) 資格取得 → 林業関係の資格を3つ以上取得する。	⑤-2　林業学習を中心として，関係機関と連携し，地域資源の活用や最新技術の習得，インターンシップの充実，資格取得等を通して専門的知識・技術の深化を図る。	⑤-2　3期生の進路については，就職では，林業関係企業への就職が9名，林業関係公務員2名，その他企業への就職3名となっている。進学では，4年制大学農学部系2名，その他1名であり，林業分野の進路決定率は，82.4%となっている。 (ｱ)地域機関との連携学習はコロナウィルスの影響で例年より減少したが，10回以上実施できた。 (ｲ)最新技術の習得については，高性能大型林業機械5回以上，ドローン講習会各学年2回以上合計6回実施した。 (ｳ)資格取得　林業関係資格1年生2つ，2年生4つ，3年生4つの計10取得した。	⑤-2　関係機関との連携については，コロナウィルスの影響もあったが，行政機関，林業事業体，関連企業，連携中学校，町教育機関など幅広い分野で，計画的な連携学習を展開した。その結果，専門的知識・技術の深化だけでなく，進路指導や6次産業化学習など充実した学習活動に繋がっている。 　また，昨年度実施したインドネシアへの森林・林業研修などは実施できなかったが，2年生で新たに演習林実習を実施するなど，林業現場で必要とされる基礎的，実践的な資質向上を図る取組を実施できた。 　さらに，木質バイオマスの有効活用を目指し，企業・行政機関と連携した新商品開発や，阿南市内で周年の店舗販売を実現するなど，生産組織体制の強化を図ることができた。	（評価） A			⑤-2　学科開設5年目を迎え，1・2期生も卒業し，地元林業事業体をはじめ，様々な場面で活躍している。一方で，残念ながら離職した卒業生もおり，今後は関係機関とも協力しながら，卒業後の定着率の向上や，サポート体制構築を図っていきたい。本年度より那賀町役場林業振興課に1期生の卒業生が採用され，学校と役場・林業事業体を結ぶハブ的役割を果たしてくれている。さらに南部総合県民局や，林業事業体で活躍する卒業生もおり，徐々にではあるが，ネットワークの構築が出来つつある。今後も，学科設立当初の理念を教職員が共有し，魅力ある専門教育を実践していきたい。
		教務課 森林クリエイト科	⑤-3 （両学科共通）前年度と比較して，成績優秀者を増加させ，成績不振者は減少させる。また，生徒の授業満足度を80%以上とする。	⑤-3　全ての教科において生徒の活動を重視させるアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れるなど授業改善を行う。また，生徒の学びの深化を図り，補助教材も活用し習熟度に応じた適切な指導を行う。	⑤-3 （両学科共通） 2学期末現在，前年度と比較して，成績優秀者は4名増であるが，成績不振者も11名増であった。 生徒の授業充実度は82.5%で前年と同様の評価であった。	⑤-3　アンケート結果では，「授業内容でわからないところがあれば気軽に質問できる」と回答した生徒の割合は75.3%で前年の74.9%を上回った。また，生徒の学びの深化を図り，補助教材も活用し習熟度に応じた適切な指導の工夫は行えている。	（評価） B			⑤-3　生徒の多様性が大きくなってきている。教材や指導方法，機器の活用において，内容を精選する必要もある。それにより生徒の授業充実度の向上と連動できるように,きめ細かい指導を継続する。
2　心のかよう生徒指導	①　基本的生活習慣の確立	生徒指導課	①-1　学習習慣を確立し，欠席数を前年度の80%以下にする。	①-1　個人面談等を実施し，保護者との連携も図りながら，生徒が登校できるように支援する。	①-1　欠席者数は前年度比で11%増加した。	①-1　欠席を繰り返す生徒に対して保護者と連携を図りながら指導を行ったが，進路変更を考える期間が長期になってしまった。	（評価） B	（評価） B		①-1　ここ数年減少傾向であったなか，今年度は増加した。長期欠席者へは，早めに対応し，少しでも登校できるように支援する。
		生徒指導課	①-2　遅刻指導を強化し，遅刻者数を前年度の80%以下にする。	①-2　遅刻ゼロ週間，遅刻者集会を実施する。また，毎朝バス停留所前での登校指導の実施や遅刻生徒の入室許可証の提出を徹底させる。	①-2　遅刻者数は前年度比で38%増加した。	①-2　遅刻ゼロ週間における遅刻者への個別指導や登校指導，入室許可証の提出を徹底させたが，バスの乗り遅れ等の理由で全学年において遅刻者が多かった。	（評価） B	基本的生活習慣の確立を目指し，年間を通して，粘り強く「心のかよう生徒指導」を目指し教職員全体で取り組んだ。 　欠席者数及び遅刻者数については，前年度比80%以下にするという大きな目標を立てたが，1年生の生徒数名が臨時休業後に心身の不調を訴えたほか，人間関係の構築がうまくできなかったこともあり，不登校傾向になったことから，前年から増加する結果となった。また，服装等初検査の違反者は，前年度から比べ増えた。違反を繰り返す者もおり，継続した粘り強い指導が必要である。 　交通安全については，今年度も朝のホームルーム活動前にバス停での乗車指導を通年において実施した。また，那賀警察署の協力を得て，交通安全指導を行ったことで,交通事故をゼロにすることができた。		①-2　前々年度58%減少し，さらなる減少を目指したが，今年度は増加した。遅刻の多い生徒への指導を徹底して，生活習慣の改善を図りたい。
		生徒指導課	①-3　服装･頭髪検査を毎月実施し，違反者を全体の5%以下にする。	①-3　全校集会での生徒生活指導講話や服装・頭髪検査を実施する。また，違反生徒については担任･学年団･生徒課が連携指定指導する。違反状況がひどい場合は，別室で特別に指導するほか，帰宅指導を行う。	①-3　月ごとの服装・頭髪検査の違反者は多い月で21%，少ない月で6%と5%以下の月はなかった。平均すると13%であった。	①-3　年度当初の周知が十分ではなく違反者が多かった。徐々に減少傾向になったが，繰り返し違反する者も多かった。再検査を実施したり，粘り強く指導を行い改善をはかった。	（評価） B			①-3　学期始めの違反者を少なくするために，長期休業前の声かけをしっかりと行う。違反を繰り返す者には，保護者の理解と協力を得ながら，粘り強く指導を行っていく必要がある。
		生徒指導課	①-4　基本的生活習慣の確立をテーマにしたホームルーム活動を学期に1回以上実施する。	①-4　基本的生活習慣の確立をテーマにし，生徒自らの意識高揚を図る。	①-4　学期始めや学期末において，基本的生活習慣の確立をテーマにしたホームルーム活動を実施できた。特に長期休業日前には，学年集会等でも，注意喚起ができた。	①-4　日常のホームルームや学年集会等を利用し，基本的な生活習慣の確立に向けての生徒への意識づけができた。	（評価） B			①-4　各学年や各クラスの実態に応じて，適した指導を適宜行っていく必要がある。
		環境・厚生課 養護教諭	①-5　健康診断の結果をふまえて，健康や生活面で課題のある生徒への個別指導を実施する。	①-5　定期健康診断結果に基づき医療機関への受診勧告や保健指導の充実を図る。	①-5　定期健康診断を円滑に実施し，再検査の生徒へ受診勧告した。必要と思われる生徒へ個別に保健指導を実施した。	①-5　コロナウイルス感染拡大を受けて，手指消毒や換気を徹底する等，工夫し健康診断を実施した。生徒の感染予防の意識向上につながった。	（評価） B			①-5　次年度も継続して，健康診断や保健指導の充実を図る。
		家庭科	①-6　食生活に関するアンケートを実施し，給食検討委員会や食育推進委員会を年1回以上実施する。	①-6　食に対する意識を高める。各委員会において，食育の推進を図る。	①-6　一年生や寮生を対象に，アンケートを実施した。給食検討委員会を年１回実施した。	①-6　食育カルタでカルタ取りを行ったり，肥満気味の生徒を対象に健康セミナーを実施することで，食生活に関する意識を高めることができた。	（評価） B			①-6 次年度も継続して行い，食生活の改善につなげる取組を行う。

令和2年度　学校評価総括評価表　［徳島県立那賀高等学校］

重点課題	重点目標	担当	評価指標と活動計画		評　価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	
2　心のかよう生徒指導		特別活動課 家庭科	①-7　生徒が食生活や郷土の食文化に関心を持つような学校行事や授業を年1回以上実施する。	①-7　家庭基礎の授業で調理実習を実施する。また，地元の伝統的な相生晩茶の茶摘み体験を2年生福祉コースの生徒が行う。さらに，希望者には，地域の食材を用いた調理実習を行う。	①-7　2年生の福祉コースにおいて，郷土料理の「はんごろし」や「かきまぜ」実習を行った。	①-7　コロナウイルス感染拡大防止のため，家庭基礎の授業で調理実習をほとんど行うことができなかったが，行事食についての講義を行うことができた。また，2年福祉コースの生徒達が，郷土料理を実習体験することにより，地域食材の伝承に興味・関心を抱くことができた。	（評価） A	コロナ禍による臨時休業中は電話連絡等により，健康状態の把握に努めた。また臨時休業明けには心身の不調を訴える生徒が多く見られたが，保健調査や個人面談を繰り返すことで，生徒に寄り添った指導を行った。また，特別な支援が必要な生徒や学校生活に困難を抱えている生徒に対しては，教育相談コーディネーターと，特別支援コーディネーターが中心になり，全職員で情報を共有しながら指導に当たった。さらに，巡回指導員やスクールカウンセラーと連携し，支援が必要な生徒に対して指導を行うことができた。		①－7　次年度も継続して実施し，郷土の食文化に関心を持たせる取組を行う。
		寮務課	①-8　寮生会議を毎月実施し，1か月の振り返りと新たな目標設定をさせ，日課表に基づいた生活を確立させる。	①-8　寮生が，自身の生活を振り返り，より良い生活となるよう，基本的生活習慣の確立や，規範意識を高揚させる機会となるようにする。	①-8　計画どおりに実施でき，自己の生活習慣を振り返らせ，目標設定をすることができた。	①-8　寮生会議を毎月初めに実施することで，寮生の基本的生活習慣の確立への取組を強化し，規範意識を高めることができた。	（評価） B			①-8　指導を丁寧に行うことで，さらなる意識の高揚を図る。
	②　安全・安心な学校教育の実施と保護者との連携強化	生徒指導課	②-1　交通安全指導を実施し，交通事故ゼロを達成する。	②-1　毎朝バス停前での登校指導を実施するほか，学校安全の日の登校指導を実施する。また，交通安全教室を年1回以上実施する。さらに，秋の全国交通安全運動期間中での交通安全運動を実施する。	②-1　生徒の交通事故はゼロであった。	②-1　毎朝バス停前での登校指導を実施した。毎月，学校安全の日を設け，登校指導も実施できた。また，スタントマンによる交通安全教室を10月に実施した。さらに，秋の全国交通安全運動期間中での交通安全運動を実施した。	（評価） A			②-1　自転車利用の生徒に対して交通違反警告書を本年度は受けることはなかった。引き続き登下校中の安全運転啓発を行い，違反者をなくしていきたい。
		生徒指導課	②-2　生活安全指導を毎月実施する。	②-2 「学校安全の日」や薬物乱用防止教室を実施するほか，携帯電話安全教室を実施する。また，地域ぐるみで生徒の健全育成に取り組む中高生徒指導委員会を開き，合同巡視を実施する。	②-2　学校安全の日における交通安全啓発活動を毎月実施できた。また，携帯電話安全教室，薬物乱用防止教室も実施した。さらに長期休業日中の合同巡視等についても実施できた。	②-2 「学校安全の日」や薬物乱用防止教室を実施した。2学期末には，1年生を対象に携帯電話安全教室を実施した。また，地域ぐるみで生徒の健全育成に取り組む中高生徒指導委員会を開き，合同巡視を長期休業日中に実施した。	（評価） A			②-2　警察署や青少年健全育成センターと連携しながら，継続して行っていく。
		寮務課	②-3　寮の帰省届・証明書の提出率を100%にする。	②-3　帰省や外出における規則を遵守させることで，規律を守ることや，防犯・安全に対する意識を高揚させる。	②-3　新型コロナウイルスの影響により，寮生の帰省について急な変更などが多くあったが，保護者との連携を密にとり，帰省状況を正確に把握できた。	②-3　提出を呼びかけることで，寮規則遵守による防犯・安全に対する意識が高まった。	（評価） B			②-3　提出率100%を目指す。
	③　個別指導をとおした生徒理解と望ましい集団づくり	環境・厚生課 養護教諭	③-1　年度当初及び必要に応じて随時個人面談や保健調査を実施する。	③-1　健康で安全な学校生活を送るために必要な情報を集め，学習環境を整える。	③-1　コロナ禍で5月末から慌ただしく授業が開始した中でも，保健調査や面談を実施することで生徒の健康状態の把握ができた。	③-1　何度か計画を変更することになったが，必要な健診や保健調査を実施することで，事故予防につながった。	（評価） B			③-1　次年度も保健調査や面談を適切に実施し，安心・安全な学校生活を保つよう努力する。
		環境・厚生課 養護教諭	③-2　年4回環境衛生検査を実施し，事後指導を行う。	③-2　安全で衛生的な学校生活を送るため，よりよい教室環境を整える。	③-2　教室のホルムアルデヒド等検査が11月実施に変更になったが，それ以外の検査は計画通りに検査を実施した。若鮎寮の冷蔵庫で基準値以上の大腸菌が検出されたため，消毒を行い，再検査を実施した。	③-2　若鮎寮の冷蔵庫以外の検査ではすべての項目で良好な状態だった。さらに衛生指導tを徹底し，よりよい状態を保つ必要がある。	（評価） B			③-2　次年度も，学校環境衛生検査を計画的に実施し，よりよい学校環境を保つよう努力する。
		環境・厚生課 養護教諭	③-3　感染症や伝染病予防の充実を図り，感染症に罹患した生徒数を前年度から減少させる。	③-3　保健委員会の活動として，感染症予防のための教室の換気や手洗い・うがい・マスクの励行など啓発する。	③-3　保健委員の活動として，教室に配布している加湿器と手指消毒液の管理をした。	③-3　マスクや手洗いの徹底など繰り返し啓発することで，感染症予防についてより一層の意識の向上がみられた。	（評価） B			③-3　次年度も，新型コロナウイルス感染症を含めた感染症予防の徹底を啓発する。
		環境・厚生課 養護教諭	③-4　AEDを用いた心肺蘇生法や救命救急処置法に関する講習会を年1回以上実施できる。	③-4　事故や災害に備えて，自他の生命を守るための知識と意識の高揚を図る。	③-4　感染症予防のためAEDを用いた心肺蘇生法の講習を，那賀町消防署の教材（DVD）を用いて実施した。	③-4　例年とは違いDVDを活用した講習だったが，参加生徒は集中して参加していた。実際に起こった事故を元にした内容だったので，身近に起こりうる事故だと実感できる講習になった。	（評価） B			③-4　次年度は，年2回，人形を用いた心肺蘇生法講習会を実施する。
		環境・厚生課 養護教諭	③-5　学校生活に関するアンケート調査を年4回実施する。	③-5　生徒のメンタルケアと，いじめ等を早期発見するため，学校生活に関するアンケート調査を実施する。	③-5　学校生活に関するアンケート調査を，計画通り年4回実施し，気にかかる生徒は個別に面談を行った。	③-5　学校生活に関するアンケート調査を活用し，気にかかる生徒へ個別に面談を実施することで，いじめやトラブルを早期に発見することができた。	（評価） B			③-5　次年度も学校生活に関するアンケート調査を活用していじめの早期発見に努める。

令和2年度　学校評価総括評価表　［徳島県立那賀高等学校］

重点課題	重点目標	担当	評価指標と活動計画		評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	
2 心のかよう生徒指導	④ 特別活動・部活動の更なる活性化と生徒・教職員の信頼関係の強化	特別活動課	④-1 生徒の基本的生活習慣の確立及び円滑で安全な部活動の運営のために，部活動顧問会議・部活動連絡協議会を開催する。	④-1 部活動顧問会議で部活動運営上の諸課題について顧問間の共通理解を図るとともに，部活動連絡協議会を通じて部活動生徒を指導する。全校一丸となった指導を行うことにより生徒・教職員の絆と信頼関係を強化する。	④-1 顧問会議を1学期・3学期に実施することができた。	④-1 部活動運営上の諸課題について顧問間の共通理解を図るために，部活動顧問会議を実施することができた。	（評価） B			④-1 年間行事計画や学期始めの計画に部活動顧問会議等の日程を組み込み，部活動の活性化へ繋げるよう努める。
		特別活動課	④-2 球技大会や学校祭等の学校行事について，「満足」と答えた生徒の割合を，80%以上にする。	④-2 生徒会役員・部活動生徒が活躍し，特別活動関連行事が円滑に実施できるよう，企画から運営まで計画的に指導する。	④-2 学校祭・球技大会等の学校行事を運営できた。今年度は新型コロナウイルスの影響で行事の縮小や変更等があったが，生徒会を中心に配慮しながら創意工夫することができた。また，事後アンケートの結果では満足すると答えた割合が90%を超えた。	④-2 生徒会役員生徒や有志等に活躍の場を提供でき，学校祭を今までになく質の高い内容にすることができた。	（評価） A			④-2 生徒会の活性化を図り，学校行事に生徒会の意見を取り入れ，少しずつ改善・改良させていきたい。
	⑤ 教育相談活動及び特別支援教育の充実	教育相談課	⑤-1 担任による個別面談を年3回以上するとともに，夏季休業中の三者面談を全員に実施する。	⑤-1・2 教育相談や特別支援を要する生徒を早期に発見し，保護者とも連携して，適切な対応・支援をする。 また，学習支援員とも連携し，支援を要する生徒へのきめ細やかな指導を行う。	⑤-1・2 臨時休校中は担任（副担任）による電話連絡によって共通理解に努めた。学校再開後，6月，9月は個人面談週間を設定し，全学年で実施した。クラスごとに実態調査を実施し，個別面談に活かした。また，学校生活に関するアンケートは，1・2学年は4回，3学年は3回実施し，気になる生徒については，担任とも連携し，コーディネーターが個別面談を行った。	⑤-1 面談週間を活用し，気になる生徒に関しては担任と連携し，必要に応じてスクールカウンセラーに繋ぎ，早めの対応を心がけた。	（評価） A			⑤-1・2 教職員間における日々の共通理解や情報交換を充実させ，生徒の進路実現に向けた指導や支援が組織的に実践できるようにする。
		教育相談課	⑤-2 各学年団との情報交換をするとともに，「君のこと教えて」シートや不登校の兆し発見チェックリストによる実態調査及び教育相談に関するアンケートを年3回以上実施する。			⑤-2 学習支援員が授業にT2として入ることで，支援を必要とする生徒はもちろん，全体の生徒へのきめ細かい指導に繋げることができた。	（評価） A			
		教育相談課	⑤-3 発達障がいと思われる生徒への教職員の理解を深めるために，スクールカウンセラーとの連携を密に図るとともに教職員校内研修会を年1回以上実施する。	⑤-3 校内研修会（ケース会議を含む）の実施により，教職員の特別支援教育に関する理解を深め，生徒への指導や支援に活かす。また，学年会や教科会おいて情報交換を図り，適切な支援や対応について共通理解をする。生徒・保護者対象に，相談の啓発を行い，円滑な学校生活への支援体制を築く。	⑤-3 教職員対象の研修会を2学期に1回実施した。	⑤-3 南部地域の15中学校から17名の先生方にも参加いただき，中高連携の研修会と情報交換会を実施した。　　また，みなと高等学園の2名の巡回相談員による指導・助言を，生徒への支援や指導に活かすことができた。	（評価） A			⑤-3 専門機関との連携をより深め，教職員個々のスキルアップが図れるよう，有効な校内研修を計画・準備・実践する。
		教育相談課	⑤-4 教育相談通信を年3回発行する。	⑤-4 生徒のニーズに合った教育相談通信を発行する。また，アンケート結果をフィードバックできるよう掲載する。	⑤-4 教育相談通信を予定通り年3回発行できた。	⑤-4 「学校生活に関するアンケート」の結果をフィードバックすることができた。	（評価） B			⑤-4 日頃から課員が，生徒にとって有益な情報を収集し，魅力的な通信となるよう工夫する。
		教育相談課	⑤-5 特別な支援が必要な生徒の指導について，関係機関において相談や支援が受けられるよう，生徒や保護者に働きかけを必要に応じて行う。	⑤-5 卒業後の進路実現を視野に入れ，保護者とも連携が図れるよう，早い段階から面談を実施する。	⑤-5 必要に応じて特別支援教育コーディネーターが保護者との面談に加わり，保護者とも連携が図れるように努めた。	⑤-5 学校評価アンケート結果によると，学校生活への満足度は，生徒が83%，保護者が87.5%であった。	（評価） A			⑤-5 教育相談活動がより活発に行えるよう，スクールカウンセラーとの連携を密に図り，組織的に取り組めるようコーチングに努めたい。
3 学びあい響きあい高めあう	① 豊かな人間性と社会性の涵養により自信や誇りをもたせる	特別活動課	① 学校行事により，集団への帰属意識や協調性が養われたと答えた生徒の割合を80%以上にする。	① 遠足・文化祭・体育祭や大学短大等への体験入学・企業へのインターンシップなどの行事において，地域住民や中学生との交流を深めることにより，マナーやモラル，思いやりを身につけ，人間性や社会性を高める。	① 学校行事を通して，生徒の協調性を高め，人間性や社会性を養うことができた。	① 今年度は学校行事を通して，地域住民や地元の中学生との交流を深める機会が少なかったが，代替行事を通してマナーや思いやりを身につけ，人間性や社会性を向上させることができた。	（評価） B	（評価） B		① 学校行事において，生徒は概ね主体的に取り組むことができている。行事に参加することをきっかけに，生徒の進路選択に繋がる刺激となるような指導をしたい。
	② 人権意識の高揚と一人一人の人権が尊重される学校づくり	人権教育課	②-1 生徒の人権意識の高揚のために，校内人権問題意見発表会を年1回開催する。	②-1 校内人権問題意見発表会で身近な人の意見を聞くことにより，様々な人権課題を自分自身の問題として捉え，人権問題を解決する意欲や実践力を養う。	②-1 生徒の人権意識の高揚のため，校内人権問題意見発表会を12月に開催することができた。	②-1 校内人権問題意見発表会で身近な人の意見を聞くことにより，社会で問題となっている問題など様々な人権課題を自分自身の問題として捉え，人権問題を解決する意欲や実践力を養う機会を持つことができた。	（評価） A	（所見） コロナの影響で，遠足，修学旅行など生徒同士が絆を深め合える行事の多くが中止となった中，「学びあい響きあい		②-1 生徒が自ら考え行動できるよう，個人情報に十分配慮し，テーマ及び発表者を決める。

令和2年度　学校評価総括評価表　［徳島県立那賀高等学校］

重点課題	重点目標	担当	評価指標と活動計画		評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	
う心の教育の推進		人権教育課	②-2　生徒の人権意識の高揚のために，人権映画鑑賞会を年1回開催する。	②-2　映画のストーリーについて考えたり，登場人物の気持ちに寄り添ったりすることによって，自他を尊重する態度を育成できるよう，連携中学校と相談しながら映画を選定する。	②-2　予定どおり実施した。映画「あん」を全校生徒及び教職員並びに連携中学校教員とともに鑑賞した。	②-2　映画のストーリーについて考え，登場人物の気持ちに寄り添うことで人権意識の向上を図ることができた。	（評価） A	高めあう心の教育の推進」に向け，生徒と一緒に工夫を重ね，行事を実施することができた。中でも那賀高祭は，一般公開をとりやめ，食品バザーを中止せざるを得ないといった制約のある中，生徒会が中心となり，生徒が主体的に参加できる行事として実施することができた。 また，部活動でも総合体育大会など主要な大会が概ね中止となる中，代替大会に向け取り組ませることで生徒の成長につなげることができた。 人権教育でも，地域の方と一緒に取り組む多くの行事が校内のみで実施することになったが，1，2年生の各クラスの人権委員が計6回実施した人権放送や，人権映画会，人権講演会などを通して生徒の人権意識の高揚が図れた。中でも，テレビ会議システムを活用して12月に行った人権弁論大会は，コロナ禍において発生したSNSによる人権侵害について多くの生徒が意見を述べ，インターネットを通じたいじめや人権侵害について生徒全体で考えるよい機会となった。		②-2 継続して実施するとともに，近隣の住民や連携中学校の生徒に参加してもらえるようにPRの仕方を工夫する。また，生徒に感想文を書かせ，それをまとめたプリントを作成し，意見を共有する。
		人権教育課	②-3　生徒の人権意識の高揚のために，人権講演会を年1回開催する。	②-3　具体的な差別事象に触れ，人権に関わる様々な問題が身の回りで発生していることを理解させるため，外部講師による講演会を実施する。	②-3　コロナ禍のため実施しなかった。	②-3　年度当初の臨時休業により，行事の精選および3蜜を避けるため，実施しなかった。	（評価） 評価なし			②-3 方法を考え，実施する。問題を自分のこととして捉えられるように，事前及び事後学習を充実させる。
		人権教育課 生徒指導課	②-4　いじめ等のアンケート調査を年4回実施し，いじめゼロを達成する。	②-4　いじめ等のアンケート調査を年4回継続して実施する。アンケート結果で，助言や支援が必要な生徒には，速やかに面談を実施する。	②-4　いじめ等のアンケート調査を年4回実施することができた。アンケート結果で，指導や助言が必要な生徒に対して話を聞き，状況を把握した。	②-4　いじめ等のアンケート調査を年4回実施することができた。アンケート結果で，学校生活に悩みがある生徒と回答した生徒に，教育相談課と連携して面談を実施した。	（評価） A			②-4　引き続き，いじめ等のアンケート調査を実施して，生徒の状況を把握し，すべての生徒を注意深く見守っていく。
		寮務課	②-5　若鮎寮において，学年間の交流を促進するために，学期に1回部屋替え及び役割分担の変更を行い，レクリエーションを年3回実施する。	②-5　寮において，家族的なあたたかい雰囲気づくりに努めるために，学年間の交流を促進する。寮生活に慣れることができるよう，日直・舎監が積極的に声かけをし，寮生全体の雰囲気を把握する。	②-5寮の部屋替えや役割分担の変更は，4・10月の2回行った（2月にもう一度実施する予定）。また，レクリエーションについては，新型コロナウイルスの影響により，12月・1月の2回実施に変更した。	②-5　寮での学年間交流を促進し，家庭的なあたたかい雰囲気づくりに努めた。	（評価） B			②-5　寮の部屋替え・役割分担の変更は，2学期に実施する。レクリエーションなどを実施し，さらに良い雰囲気づくりに努める。
	③　情報モラル教育の推進	情報担当	③　インターネットやSNS等の利用における情報モラル教育を，全校生徒に向けて年1回以上行う。	③　人権放送において，インターネットやSNS等に関する情報モラルの課題を設定し，全校生徒への情報モラル教育を実施する。	③　9月に人権放送で，「インターネットと人権」をテーマとして，情報モラル教育を実施することができた。	③　9月の人権放送で，「インターネットと人権」をテーマとして，インターネットの危険性やSNS上での礼儀やマナーについて，放送を通して深く考えることができた。	（評価） B			③　引き続き，人権教育課とも連携を図りながら，情報モラル教育を推進していく。
	④　学校・家庭・地域との連携の強化	人権教育課 総務課	④-1　人権意識の高揚を図るPR活動を配布物やホームページにおいて学期に1回以上積極的に行う。	④-1　PTA活動を通し，各種行事の案内をする機会毎に，人権意識の高揚を図るPR活動を行う。	④-1　人権教育関係の行事について，案内や報告を学期に1回以上行った。	④-1 ホームページを活用し，生徒の活動を周知できた。	（評価） B			④-1 ホームページ等では報告できたが，全体への呼びかけに工夫が必要である。
		人権教育課 総務課	④-2　人権映画鑑賞会と校内人権問題意見発表会の実施について，保護者に対して毎回広報する。	④-2　保護者・地域・近隣学校を対象にした人権映画鑑賞会や校内人権問題意見発表会の案内を，ホームページへの掲載等を通じて行う。	④-2　今年度は非公開で実施したため，連携中学校生徒および保護者には参加してもらえなかった。	④-2　人権映画について，連携中学校の先生が参加した。意見発表については，本校の教員・生徒のみで実施した。	（評価） 評価なし			④-2 中学校との連携を密にし，より多くの方に参加してもらえるよう日程を調整する。
		人権教育課 総務課	④-3　学校・家庭・地域との連携の強化を図るために，PTAの人権擁護委員に対して校内人権問題意見発表会への参加を毎回依頼する。	④-3　人権擁護委員へ参加を依頼し，連携を強化する。	④-3　今年度の人権問題意見発表会は非公開で実施したため，参加してもらえなかった。	④-3 意見発表会は各クラスでリモートで行い，本校の教員・生徒のみの参加だった。	（評価） 評価なし			④-3 人権擁護委員の方と情報交換するなど，連携強化が図れるよい機会なので，次年度以降も継続して実施する。
		人権教育課 総務課	④-4　文化祭における人権教育の展示コーナーに対する来場者へのアンケート調査で，「充実している」と答えた割合を80%以上にする。	④-4　文化祭における「ゆずの会」による展示を充実したものにする。	④-4　新型コロナウィルス感染拡大防止のため文化祭を非公開で実施したため，展示・アンケートを実施することが出来なかった。	④-4　新型コロナウィルス感染拡大防止のため文化祭を非公開で実施したことから，展示・アンケートを実施できなかった。	（評価） 評価なし			④-4　展示作品の内容の充実を図り，在校生だけでなく，来校者も楽しめるよう工夫する。
4　夢をはぐくむ進路	①　進路実現を図る学力の育成	進路指導課	①-1　進路実現を図る学力の育成のために，進学希望者を対象に，1・2学年は週3回，3学年は週5回の早朝補習を実施する。	①-1　基礎学力の底上げと，校外模試に対応できる応用力を養うために，年度当初に教科と連携して補習の在り方を検討し，早朝補習を計画・実施する。	①-1　計画通り実施できた。特に3学年は，教科担任の協力もあり，想定以上に実施することができた。	①-1　教科と連携し，生徒の実態や進路希望に応じて柔軟に対応することができた。	（評価） B	（評価） B		①-1　次年度も学年や教科と連携しながら補習を実施していきたい。1・2年生の補習に対する意識の向上を図るとともに，参加できる補習の形を検討する。
		進路指導課	①-2　進路実現を図る学力の育成のために，放課後補習や面接・作文・小論文指導を適切に実施する。	①-2　3年生については，2学期以降，就職試験，入学試験の本番に向けて様々な取り組みを行うために，職員間の意思疎通を積極的に図る。	①-2　計画通り実施できた。特に3学年は，教科担任の協力もあり，想定以上に実施することができた。	①-2　学年や教科担任と常時連携を図ることができた。	（評価） A	（所見） 「夢をはぐくむ進路指導」を目標に掲げ，生徒の進路実現を図るために，補習指		①-2　密な情報共有ができた。次年度も継続したい。

令和2年度　学校評価総括評価表　［徳島県立那賀高等学校］

重点課題	重点目標	担当	評価指標と活動計画		評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	
指導	②　進路意識を向上させる各種行事の計画と実施	進路指導課	②-1　進路ガイダンスを年2回以上実施する。	②-1　テスト後の時間を利用して，大学等の教職員を招き生徒に進路ガイダンスを行う。	②-1　コロナウイルス感染拡大予防のため中止した。	②-1　コロナウイルス感染拡大予防のため中止した。	（評価） 評価なし	導や各種資格取得に向けた指導などを全教職員が一丸になって行った。 コロナ禍のために2年生普通科におけるインターンシップを中止とせざるを得なかったが，その代替行事として，地域の企業見学を行うことができ，生徒の進路意識の高揚を図ることができた。また1年生における大学・専門学校訪問では，県内私立大学や専門学校の協力の中実施することができ生徒のキャリア意識の高揚が図れた。 　進路実績では，普通科から都留文科大学1名，森林クリエイト科から徳島大学へ1名と，今年度も国公立大学への合格者を2名出したほか，国家公務員合格者1名，徳島県職員合格者1名をだすことができた。今年度はこの他にも普通科から徳島県警1名，海部消防組合1名の合格者を出すことができた。このように「チーム那賀高」の意識を持ち，教職員が協力して取り組んだ結果，3年生の進路決定率はほぼ100%となり，生徒一人一人の夢の実現という大きな目標を達成することができた。		②-1　オンライン等を活用して実施したい。
		進路指導課	②-2　総合的な学習の時間（FDタイム）において，生徒が自らの進路について考える機会を持たせ，1年生で大学・短大・専門学校へのオープンキャンパスに参加した割合を60%以上，2年生のインターンシップ満足度を80%以上にする。	②-2　FDタイムの一環として，1年生は大学・短大・専門学校訪問を行い，2年生はインターンシップを行う。	②-2　コロナウイルス感染拡大予防のため中止した。	②-2　1年生の大学専門学校訪問は実施できたが，2年生のインターンシップは森林クリエイト科のみ実施した。普通科の生徒は地元企業見学に代替した。	（評価） B			②-1　生徒にとって貴重な体験であるため，状況が好転すれば，次年度は実施したい。
	③　進路ガイダンスの充実と教職員のガイダンス能力の向上	進路指導課	③　ベネッセ・河合塾等の説明会や各種大学の説明会の中で，とくに有意なものを選択し，クラス担任は年1回以上，特に第2ステージの教職員（中堅教職員）は，2回以上参加する。	③　進路に関する各種講習会や職員研修を利用し，教職員のガイダンス能力の向上を図る。	③　コロナウイルス感染拡大予防のため中止になったり，人数制限等があったりで計画通り実施することができなかった。	③　文理大学を招いての教員対象進路説明会を1回実施できた。	（評価） B			③　県内大学専門学校の方を招いての説明会は有効であった。担任からも積極的な質問ができた。次年度は学校数を増やしたい。
	④　資格取得・検定合格に向けた指導の充実	進路指導課 情報科	④-1　生徒個々の能力にあった資格取得の指導を徹底し，ビジネス文書検定・情報処理検定など3級の合格率を50%以上にする。	④-1　ビジネス文書検定・情報処理検定に向けた補習授業等の充実を図る。	④-1 検定前には，放課後補習を実施するなどして，資格取得に向けた対策を実施した。3級の合格率は，4回を通して約56%の合格率に達した。	④-1 授業や長期休暇中の課題を通して，継続的に検定に向けての学習を積み重ねることができた。検定前には対策補習を実施し，参加生徒が増えたこともあり，高い合格率を達成することができた。	（評価） B			④-1 上位級の合格率を高めるための対策補習や授業展開など，情報科で連携を図って実践していく。
		進路指導課 国語科 英語科	④-2　生徒個々の能力にあった資格取得の指導を徹底し，英語検定及び漢字検定の合格率を50%以上にする。	④-2　英語検定，漢字検定等を教科指導の一貫として授業に関連させて指導し，合格率の向上を図る。特に英語検定及び漢字検定においては，3級受験者の合格者率をそれぞれ増加させる。	④-2　個別の資格取得講座を積極的に実施した。合格者の割合については35%であり昨年度よりも増加しているが，目標は達成できなかった。	④-2　意欲的に上位級の受験に挑戦する生徒が増え，合格率は目標達成できなかったが，意識付けができた。授業や早朝の進学補習の中で，検定対策用の指導を行うことができた。また，受検対象生徒には，放課後に個別指導を行うことができた。	（評価） B			④-2　検定対策講座を多く実施することはできた。次年度は学習到達段階に応じた受験ができるよう指導し，2級合格者が1名以上に出るよう，指導を継続したい。
	⑤　保護者対象進路説明会の充実	進路指導課 総務課	⑤-1　保護者対象の進路説明会に，多くの保護者が参加できるよう内容・日程を調整し，参加率を50%以上にする。	⑤-1　ホームページを積極的に活用するとともに，時間的な余裕をもって案内を行う。また，資料等の充実を図り，説明会の満足度を向上させる。	⑤-1　コロナ禍にあっても，各学年とも多くの保護者が参加し，目標を達成できた。	⑤-1　学年主任を中心に早期から準備をしていただき，計画以上のことができた。	（評価） A			⑤-1　年々保護者の参加率が上昇している。保護者が欲する情報を提供できるよう資料・情報の収集に努める。
		進路指導課 総務課	⑤-2　各学年の保護者対象の進路説明会を年１回開催する。	⑤-2　学年主任を中心にして，各学年の進路説明会を開催する。	⑤-2　コロナ禍ではあるが計画通り実施することができた。	⑤-2　学年主任を中心に，学年や進路希望に応じた説明会を実施することができた。	（評価） A			⑤-2　年々保護者の参加率が上昇している。保護者が欲する情報を提供できるよう資料・情報の収集に努める。
5 防災教育・環境教育の充実	①　防災・減災教育の充実と深化	環境・厚生課	①-1　防災・減災教育の充実と深化を図るため，防災士を5名以上養成する。	①-1　防災クラブのメンバー中心に呼びかけ，講習会への参加を支援する。	①-1　防災士受験者2名のうち1名が合格をすることができた。	①-1　新型コロナウイルス感染症の影響で受験者が限定されたこともあり，受験者が減少した。	（評価） B	（評価） B		①-1　来年度も継続し防災士の取得に努めていきたい。
		環境・厚生課	①-2　防災避難訓練行事を年2回以上実施する。	①-2　7・12月に防災避難訓練を実施する。	①-2　計画どおり，防災避難訓練行事を年2回以上実施することができた。	①ー2　計画どおり，9・12月に防災避難訓練を実施することができた。	（評価） B	（所見） 　コロナ禍の中，「学校でクラスターを発生させない」を合言葉に，マスクの着用の徹底や定期的な換気，手指消毒の徹底など，学校全体で感染防止対策に取り組んだ結果，生徒・教職員ともに感染者をゼロにすることができている。 　防災教育については，防災キャンプ実施するなど生徒の防災意識の高揚に努めていることが評価され，今年		①-2　防災訓練の内容の見直しを行い，充実した内容にする。
		環境・厚生課 寮務課	②-3　危機管理能力を高めるために，寮の防災訓練を年2回実施する。	②-3　4・12月に防災訓練を実施する。	①-3　新型コロナウイルスの影響により日程は変更したが，寮の防災訓練を年2回実施した。	①-3　新型コロナウイルスの影響により日程は変更したが，年2回防災訓練を実施することができた。	（評価） A			①-3　防災訓練の内容の見直しを行い，充実した内容にする。
		環境・厚生課 防災クラブ	②-4　地域で実施される防災食づくり講習会を年1回実施する。	②-4　防災食づくり講習会を通して地域の方との交流を深め，防災意識の向上を図る。	②-4　コロナ禍の影響で地域での行事が中止されたため，校内でできる活動として防災マスクや防災リュックを作成した。また，地元小・中学生とともに防災プログラムに参加した。	②-4　計画していた内容を大きく変更することになったが，校内でできる活動を模索し実施できたことで，学校全体の防災意識の向上につながった。	（評価） B			②-4　次年度も継続して防災教育に取り組む。

令和2年度　学校評価総括評価表　［徳島県立那賀高等学校］

重点課題	重点目標	担当	評価指標と活動計画		評　価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	
5　防災教育・環境教育の充実	②　エシカル教育の充実	特別活動課 家庭科	②-1　エシカル教育の充実と深化を図るため，校外への広報活動を3回以上行う。	②-1　ホームページや校内外での呼びかけや，ポスターによる啓発活動を実施する。	②-1　近隣の乳幼児施設（こども園・子育て支援センター）や阿南市のイベント・商業施設への広報活動を行うことができた。	②-1「服活」や郷土料理実習の活動記録を随時ホームページで更新したり，徳島新聞や消費者教育の広報誌，SNSでイベント活動を掲載していただくことで，エシカル活動の啓発を行うことができた。	（評価） B	度も県の「まなぼうさい活動賞」を受賞することができた。コロナの影響で地域と連携して実施する行事は実施できなかったが，防災クラブの活動として，防災食づくりの普及・啓発を目指し，防災クラブが作成したレシピ集の活用を図った。		②-1　次年度も継続して行い，エシカル教育の普及に努めたい。
		特別活動課 家庭科	②-2「服活」イベントを年3回以上実施する。	②-2　家庭クラブのメンバーを中心に，服の回収や「服活」イベントへの積極的な参加を呼びかける。	②-2　コロナ禍の影響を受けイベントがほとんど開催されなかったが，校内で1回，校外で4回実施することができた。	②-2　ホームページでのイベント告知やチラシを配布することにより，広報活動を行うことができた。	（評価） B			②-2　次年度も継続して行うとともに，エシカルファッションの啓発活動を推進したい。
	③　「徳島県新学校版環境ISO」の認定取得経験を生かした環境教育の実践	環境・厚生課	③-1　ごみの分別が「できる」と答えた生徒の割合を90%以上にする。	③-1　各生徒が校内でのゴミの分別を徹底される。特に学校行事の際には分別が徹底でき，決まった場所に捨てることができるよう，定期的な環境委員によるゴミ箱のチェックと分別の呼びかけを行う。	③-1　各教室のゴミの分別は，生徒が積極的に分別を行い，ほぼ徹底できた。	③-1　ストックヤードでのゴミの分別方法を呼びかけなども行った。	（評価） B	校内外の清掃活動をはじめとする環境教育においては，生徒の意識高揚に対して更なる工夫や対策を講じる必要がある。		③-1　基本的な分別のルールについて生徒・教員に周知徹底し，適切に分別ができるよう指導する。
		環境・厚生課	③-2　省エネ意識の高揚を図り，昨年度より電気代・水道代等を節約する。	③-2　節電・節水の啓発及び電気使用量の昨年度比較を周知し，徹底した省エネ意識の高揚を行う。	③-2　新型コロナウイルス感染症の影響で7月，8月に生徒が登校したこともあり，電気使用量が増加したが，その他の月に関しては例年と大きな差は無かった。	③-2　学校環境ISO認定取得を生かし，3Rに基づく環境目標を大きく掲示し，放課後などの無用な使用がないようにこまめな節電を呼びかけ，意識向上を図ることができた。	（評価） B			③-2　教室を使用しないときはエアコンを切ることを指導し，係をクラスで決め，教室移動や放課後の節電を徹底させる。
	④　校内外の環境美化活動の推進	環境・厚生課	④-1　通常の清掃活動に「真剣・丁寧に取り組んでいる」と答えた生徒の割合を80%以上にする。	④-1　日常の学習環境の美化を呼びかけることによって，日々の清掃活動を丁寧かつ徹底して行わせる。特に，トイレの清掃を徹底させる。	④-1　ほとんどの生徒が前向きに清掃活動に取り組み，「真剣・丁寧に取り組んでいる」と75%の生徒が答えた。	④-1　新型コロナウイルス感染症対策として掃除の際に，アルコールによる消毒を実施するなど，校内だけでなく，感染症対策にも取り組んだ。	（評価） B			④-1　常に教室環境を整えることを習慣化できるよう指導を徹底する。
		環境・厚生課	④-2　環境委員を通して教室の美化・環境整備を徹底し，「教室の環境整備が行われている」と答えた生徒の割合を80%以上にする。	④-2　日々の清掃活動の徹底に加え，大掃除の際に普段できていないところまで清掃を行うことで，校内美化活動を推進する。	④-2　各学期の終わりなどの大掃除のときには，積極的に徹底した掃除を行うことができたが，「教室の環境整備が行われている」と答えた生徒は75%にとどまった。	④-2　各学期の終わりや行事前などに大掃除を設け，普段では行き届かない場所の清掃を行い，行校内美化活動を推進することができた。	（評価） B			④-2　掃除用具の導入や更新，修繕箇所の確認等を行い，清掃のしやすい環境を整えていきたい。
		環境・厚生課 生徒指導課	④-3　学期に1回学校周辺の環境美化活動を行うとともに，全校集会でバス利用者に対するマナー遵守について説諭する。	④-3　那賀高前バス停留所及び周辺の美化活動に取り組む。バス利用者にマナーの遵守を呼びかける。	④-3　学期に1回以上那賀高前バス停留所及び周辺の美化活動に取り組むことができた。全校集会等でバス利用者のマナーの遵守を呼びかけたが，数回，苦情を受けた。	④-3　那賀高前バス停留所及び周辺の美化活動に取り組むことができた。全校集会等で，バス利用者のマナーの遵守を呼びかけた。	（評価） B			④-3　引き続き，バス停周辺美化活動を進めていく。バス利用者へのマナーの呼びかけは，新入生に対して年度当初にしっかりと行う。
6　連携型中高一貫教育プログラ・	①　地元中学校との連携を強化した授業の実践	教務課	①-1　連携中学校のPTA総会に参加し教育活動を広報する。また，中学生体験入学を実施し学校紹介をするとともに，連携中学校でのティームティーチングによる公開授業を年3回実施する。	①-1　連携中学校PTA総会，中学生体験入学，中高ティームティーチング公開授業などの機会をとらえて学校紹介を行う。	①-1　今年度はコロナウィルス感染症のため,PTA総会および中学生体験入学（中止）での広報はできなかった。しかし5月末からの学校再開後はティーム・ティーチングも例年通り行い,公開授業も連携3中学校において計画通り実施した。	①-1　中高ティーム・ティーチング公開授業，オープンスクールなどの機会をとらえて学校紹介を行った。また森林クリエイト科において体験学習も行った。	（評価） B	（評価） B		①-1　中高一貫教育研究委員会の5つの専門委員会の活動が連携を継続させる大きな役割を担っており，テレビ会議を今まで以上に有効活用する。オンラインによる授業も行う。
		教務課	①-2　高校におけるティームテーチング（以下TT)の授業内容の研究と成果の実態についての研究会を学期に1回以上開催する。公開TTの授業を各中学校で1回以上実施する。	①-2　TTの研究会や公開授業を通して授業力の向上を図る。TT実施時間の確保に努め，またTTの方法について中高一貫教育研究委員会の教務委員会において検討する。	①-2　高校におけるティーム・ティーチングの授業内容の研究会では，アンケート結果により課題や効果を職員会議で共有した。中学校での公開ティーム・ティーチングの授業は予定通り実施することができた。	①-2　中学校でのティーム・ティーチングの公開授業および研究会を通して一貫教育の見直しや連携が深められている。また，ティーム・ティーチングの方法については，中高一貫教育研究委員会の教務委員会において中学,高校それぞれにとって有効な方法を検討する。	（評価） B	（所見） コロナの影響で，那賀高祭での連携中学生との交流や生徒会の交流などができなかったが，テレビ会議システムを活用した中高の交流などを実施することで，中学生		①-2　継続的な指導が難しいが，月単位または学期単位ごとでの指導計画を両者で計画する。また中高のスムーズな連携となればTTの教科についても中高で共通理解の必要がある。

令和2年度　学校評価総括評価表　［徳島県立那賀高等学校］

重点課題	重点目標	担当	評価指標と活動計画		評　価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	
ムの推進		教務課 特別活動課	①-3　各連携中学校とテレビ会議システムも用いた生徒同士の交流を年5回以上実施する。	①-3　連携中学校の学級会活動において，那賀高校の説明を行ったり，生徒会同士の交流を行う。またICTも活用し活動する。	①-3　コロナウィルス感染症の影響で中高の日程が一致せず,生徒会等の交流は例年通り1月末に1回実施した。ただ研究委員会および各専門委員会(教務，進路指導，人権教育)で年7回のテレビ会議を行った。	①-3　コロナウィルス感染症の影響で研究委員会および各専門員会はほとんどテレビ会議で実施した。　”災い転じて” ということでもないが,時代に即したまた，機器に関するトラブルもほとんどなくなく実施でき，移動や時間を考えると非常に効率的であった。	（評価） C	に対して高校の魅力を発信することができた。「連携型中高一貫教育プログラムの推進」については，連携型中高一貫教育研究委員会の各委員会が中心になり，今年度もティーム・ティーチングや公開研究授業，学校行事等による交流などを継続して行った。 　連携の大きな目的の一つとして那賀高校への進学率の向上が挙げられるが，ティーム・ティーチング等の中高連携活動が，中学生の那賀高校への進学意識の高揚に必ずしも繋がっていないという現実がある（中高一貫教育研究委員会・教務委員会のアンケートによる）。連携中学生の進学率をいかに向上させるかが来年度に向けての大きな課題である。		①-3　日程の調整が厳しい部分があるが，研究委員会等はオンラインでの実施が効率的である。生徒同士の交流も各専門委員会で計画し,連携をより身近に実感できるようにTV会議を充実させる。
	②　学校行事における合同事業の充実	特別活動課	②-1　那賀高祭に連携中学生が参加し交流を図る。	②-1　那賀高祭に連携中学校の生徒が参加できるように，事前の連携，打合せを早い段階で行う。	②-1　今年度は新型コロナウイルスの影響で学校祭を非公開で行ったため，文化祭において，生徒作品の展示は行わなかった。体育祭に関しても中学生の参加はなかった。	②-1　今年度は，非公開のため文化祭・体育祭への連携中学の生徒，あいおいこども園の園児の参加は見合わせた。	（評価） B			②-1　次年度も継続して実施する。
		特別活動課	②-2　那賀高校生徒会と連携中学校の生徒会の交流集会を年１回実施する。	②-2　夏季休業日に那賀高校と連携中学校の生徒会役員が集まり，各学校紹介や情報交換・レクリエーション等で交流を深める。	②-2　那賀高校生徒会と連携中学校生徒会との交流集会を年１回実施しているが，新型コロナウイルスの影響により夏季休業が中高で時期がずれており開催できなかった。	②-2　夏季休業日の日程が合わず，那賀高校と連携中学校の生徒会役員が集まる交流集会を実施していない。事前の教員による計画打ち合わせは，ZOOMを使用し行った。	（評価） B			②-2　次年度も継続して実施する。
		特別活動課	②-3　各部活動において，連携中学校との合同練習や練習試合を実施する。	②-3　各部活動で中学生を受け入れ，中学生体験入学時や他の時期にも体験入部を実施する。	②-3　新型コロナウイルスの影響により各部単位での実施はできていない。	②-3　中学生体験入学が実施されなかったため，体験入部を実施できていない。	（評価） B			②-3　次年度も継続し実施する。
	③　連携中学校への積極的なPR活動	特別活動課	③　中学生と高校生がテレビ会議システムを通して年3回以上交流する。	③　連携各中学校とテレビ会議システムを活用し学校紹介をする。	③　中学校との連携を密にすることにより，計画的に実施することができた。	③　連携中学校との交流を，1月末に実施した。今年度は鷲敷中，相生中，木頭中の3校合同で行ったため，1日で実施した。	（評価） B			③　中高連携の一つの在り方としてのテレビ会議システムをさらに充実させていく。
7　地域に開かれた活力ある学校づくりの推進	①　コミュニティ・スクールの導入による地域とともにある学校づくり	管理職	①-1　コミュニティ・スクール導入に向けての規約を整備し，学校運営協議会を年3回開催する。	①-1　学識関係者や地域の企業及び学校関係者を含んだ7名の委員を委嘱し，学校運営協議会を年3回実施する。	①-1　学校運営協議会を7，11，2月の年3回実施し，学校運営等に関して，各委員からの指導・助言をいただいた。	①-1　委員の構成については，転勤による辞任申し出があり，10月初旬に1名の解任及び後任の任命を行った。	（評価） A	（評価） B		①-1　各委員に学校経営の基本方針に関する承認や学校運営・教育活動への意見をいただくために，第1回学校運営協議会を第１学期当初に開催する。
		管理職	①-2　学校運営協議会において，学校振興について協議し，新しい取組を検討する。	①-2　学校運営協議会において，特色ある教育活動等を協議し，学校振興に係る新しい取組を検討する。	①-2　コミュニティ・スクール導入に伴う新たな取組として，那賀町・徳島大学・大塚製薬株式会社と連携した取組を各委員に提案して，助言をいただいた。	①-2　那賀町特別支援教育連絡協議会への参加や徳島大学サテライトキャンパス（新野キャンパス）の見学研修を実施することができた。ただし，コロナ禍の影響で外部人材の活用が思うようにできなかった。	（評価） B	（所見） 　コロナの影響で，地域の方々と一緒に行う行事が制限され，「評価なし」といった項目が多くなってしまった。そうした中で「せせらぎ新聞」や学校ホームページを活用することで那賀高校の教育活動の広報に努めた。地域に開かれた学校づくりの一環としてホームページは月20回以上の更新を目ざして運営し，教育活動を広報した結果，閲覧数が増加し，毎日約1000アクセスを計上した。 　また，福祉コースの授業や森林クリエイト科の授業において，地域の方々が講師として授業を行うことで，地域交流を図ることができた。 　今年度はコロナ禍の中で地域の方々との交流が制限されたが，来年度は，「地域に開かれた活力ある学校づ		①-2　今年度に実施できなかったコミュニティ・スクール導入に伴う今後の取組を継続する。また，外部講師の活用や学校行事における外部人材の活用について，検討する。
	②　魅力ある学校行事の実施と保護者や地域の人々への学校公開	特別活動課	②-1　地域のイベントにボランティアとして年5回以上，生徒・教職員合わせて延べ100名以上が参加する。	②-1　Exciting Summer in WAJIKIや夏祭りなどの地域の行事に，ボランティア活動等で参加する。	②-1　地域のイベントがコロナ禍の影響で全て中止になったため，参加ができなかった。	②-1　地域のイベントがコロナ禍の影響で全て中止になったため，参加ができなかった。	（評価） 評価なし			②-1　次年度も継続し実施する。
		特別活動課	②-2　那賀高祭の期日・内容等を早い段階から，広くPR活動し，那賀高祭における地域からの参加者を300名以上確保する。	②-2　那賀高祭の期日・内容等を地域のケーブルテレビ等を使って広報するとともに，那賀高祭に地域の方が参加して楽しめる内容のイベントを企画して実施する。	②-2　今年度は非公開で実施。	②-2　今年度は非公開で実施。	（評価） 評価なし			②-2　次年度も継続し実施する。
		特別活動課	②-3　那賀高祭において，地域のボランティア10名に参加していただく。	②-3　那賀高祭の文化祭において，スペースを提供し地域のボランティアの方に参加していただき，特産物販売の出店してもらう。	②-3　今年度は非公開で実施。	②-3　今年度は非公開で実施。	（評価） 評価なし			②-3　次年度も継続し実施する。

令和2年度　学校評価総括評価表　［徳島県立那賀高等学校］

重点課題	重点目標	担当	評価指標と活動計画		評　価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
			評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	
7 地域に開かれた活力ある学校づくりの推進		総務課	②-4　那賀高祭の後，PTA役員・家庭教育研修部役員にアンケートを実施し，満足度80%を目ざす。	②-4　PTAバザーに関する内容と，展示やステージイベントなどに関する項目について答えていただき，那賀高祭を充実させるための意見を集約する。	②-4　今年度は新型コロナウィルスの影響でバザーが中止となったため実施することができなかった。	②-4　今年度は新型コロナウィルスの影響でバザーが中止となったため実施することができなかった。	（評価） 評価なし	くり」を推進するために，地域の方々と交流する機会を増やしていくことが大切である。		②-4　次年度も継続し実施する。
	③　ホームページ，広報新聞，ケーブルテレビ等によるPR	校誌編集委員会	③-1　広報新聞（「せせらぎ新聞」）を年3回発行する。	③-1　広報新聞の内容を充実させるとともに年3回発行し，地域の方々に那賀高校の活動状況を広くアピールする。	③-1　広報新聞（「せせらぎ新聞」）を年3回発行することができた。	③-1　行事の中止などもあったが掲載内容を検討し，制裁広報新聞の内容を充実させるとともに年3回発行し，地域の方々に那賀高校の活動状況をアピールできた。	（評価） B			①-1 学校評価アンケートの結果から，広報新聞に対する保護者の認知度が低いため，成績表送付の際に同封するなどの方策を実施する必要がある。
		情報担当 各行事担当者	③-2　学校の教育活動を広報するために，ホームページを月20回以上更新する。	③-2　学校行事ごとに内容を更新し，広く那賀高校の活動状況をアピールする。	③-2　Web-tantoの投稿回数履歴において，毎月20回以上の更新をおおむね行うことができた。	③-2　学校行事・部活動の記事の更新を頻繁に行うことができ，学校の日常を発信することができた。	（評価） A			③-2　ホームページの更新を定期的に呼びかけ，更に更新回数を増やしていく。
		情報担当 各行事担当者	③-3　ホームページの内容を充実させ，アクセス数を１日600件以上にする。	③-3　学校の教育活動についての広報や保護者への案内等，新しい情報を適宜発信する。	③-3　年度当初から1日平均1000件以上のアクセスを得ることができた。	③-3　各担当者が随時ホームページを更新し，最新の情報を発信することができた。	（評価） A			③-3　どんな記事に対してアクセス数が集中するのかを調べ，発信内容を工夫する。
		情報担当 部活動顧問	③-4　各部活動の戦績や，試合日程，練習計画等について，ホームページに月1回以上アップする。	③-4　部活動の戦績や，試合日程，練習計画等をホームページに適宜掲載する。	③-4　試合結果や遠征の様子など，各部活動の様子をアップすることができたが，部活動によってアップの状況にはばらつきがあった。	③-4　大会の結果や校外活動の様子については，多くの部活動で積極的にアップしていた。	（評価） B			③-4　普段の活動の様子も積極的にアップするように呼びかける。
	④　地域との連携を密にした学習活動と地域の担い手となる「人財」の育成	教務課 福祉科	④-1　地域の方を社会人講師とした授業を年5回以上実施する。	④-1　福祉・情報に社会人講師を招いて授業を展開する。林業の講演会，研修会を実施する。	④-1 コロナウイルス感染拡大の影響を受け，介護現場の講師による講義や実技指導を受けることができなかった。	④-1 健祥会学園の専任教員や朗読ボランティアグループを講師に招き，講義や演習を3回，絵本の読み聞かせ講習会を1回実施した。	（評価） B			④-1 現場で活躍する専門職の知識や技術を学ぶ良い機会となるため，次年度も継続して行う。
		教務課 家庭科	④-2　地域との連携を密にした学習活動として，地元の茶摘み等を年1回以上体験する。	④-2　地元の茶摘みや漬け込み，天日干しなど一連の工程を体験する。	④-2 悪天候により，日程調整ができず茶摘みや天日干しなど一連の工程を体験することができなかった。	④-2　相生晩茶でマスクを染め，地域のデイサービスセンターに配付した。	（評価） B			④-2 関係機関と連携しながら次年度も継続して行う。
		教務課 福祉科	④-3　福祉コースの授業で年1回以上保育実習や介護実習を行う。	④-3　わじき子ども園および高齢者の介護施設において福祉の現場実習を行う。	④-3 コロナウイルス感染拡大の影響により，高齢者介護施設での現場実習は実施できなかった。	④-3 実習予定日の2週間前からコロナウイルス対策を行い，わじきこども園にて，保育体験実習を実施することができた。	（評価） B			④-3 保育の役割や人を育てることの責任の重さ，介護職の使命感や職務内容を理解する貴重な体験となるため，関係機関と連携しながら次年度も継続して行う。
		教務課 進路指導課	④-4　FDタイムの一環として，1年生は大学・短大・専門学校訪問を1回実施し，2年生は2日間のインターンシップを実施する。	④-4　1年生は大学・短大・専門学校訪問を実施する。2年生は2日間のインターンシップを実施する。訪問先及び実施先の検討については，進路指導課と学年が連携して行う。	④-4　コロナの影響で2年生のインターンシップは森林クリエイト科は事業所の配慮をいただき実施した。普通科においては中止となったが那賀町の支援により1日であるが地元企業を見学させていただけた。また勤労観・職業観を育成しているとの評価は前年と比較すると，生徒の評価は88.5%で前年を1.3%下回った。	④-4　1年生は大学・短大・専門学校訪問を予定通り11月に実施した。インターンシップは報告会も中止とし,正規の授業を実施した。	（評価） 評価なし			④-4　評価のアップ，ダウンはあるが，保護者の進路指導に対する評価を含めてもいずれも90%近い評価を得ており，勤労観・職業観の育成のためにも継続できるように代替案も準備する。

○　学校関係者評価　（令和3年2月19日金曜日に本校で開催した令和2年度第3回学校運営協議会で、学校評価総括評価表について協議し、数々のご提言をいただいた）

①　企業でも評価を行っているが，高校での評価は非常に多岐に渡っている。評価Bの項目が多いが，高校はよく頑張っているので，もっとAがたくさんあってもいいと感じた。
②　中学校との連携においてテレビ会議を活用しているのだから，Cではなくもっとよい評価でもよかったのでは。また，那賀高校は防災活動なども積極的に取り組んでいるので，評価はAでよかったのでは。
③　特別な支援が必要な生徒に対してよく取り組まれていると思うが，そうした生徒の就職先の確保など，進路支援について継続して行ってほしい。
④　臨時休業の影響で，不登校傾向になった生徒に対して，一人一人のケースに応じた指導を行ってほしい。
⑤　遅刻・欠席が増加したことについては，事例分析をしっかりと行い，次年度の取組に活かしてほしい。
⑥　寮の取組に関しては，評価をAにしてもよかったのでは。ただでさえ忙しい中で，寮生活まで指導していることに驚いている。また，次年度の計画を作成する際には，コロナ禍の影響が継続することを視野に入れて作成するべきである。さらに，環境問題なども学校全体として取り組んでいくべきではないか。
⑦　学校評価では適切な数値目標を設定することも重要である。那賀高校は少し厳しめの目標設定をしている気がするので，前年度の取組に対する評価を参考にしながら，数値目標を設定してもいいのでは。